

トークDE青年会議SHOW!

帯広J.C 第五二代理事長

火ノ川 好信先輩



帯広J.C 第六〇代理事長

金澤 宗一郎君

テーマ 地域との可能性

金澤理事長(以下金澤) 本日は御多忙の中、本当にありがとうございます。今回、地域の可能性というテーマで、私も火ノ川先輩の略歴、さらには年報等も拝見させていただきました。まず、火ノ川先輩と言えばまちづくりというところがイメージされますが、「まちづくりが趣味である。」というぐらゐの名言を残されている中で、火ノ川先輩の考えるまちづくりについてお話を聞かせていただけますでしょうか。

火ノ川先輩(以下火ノ川)

まちづくりの話と言われ

るとなかなか難しいのですけどね。僕が最初にやっていたのが、おそらく中心商店街をどうするかということだったと思います。それが22歳、23歳の時でした。もちろんその時、僕は農業をやっていたので青年会議所には入会していません。青年会議所へ入会したのは28歳からですが、農業をやっていたので農業従事者が帯広の中心商店街のことを考えてくれるということだけでもありがたみを感じていました。中心街がどうなるというよりは、そこに同じ様な若い世代の仲間がいて、その人達が自分達の街をどうするかと考えること自体に特別な意識なんて全くありませんでした。中心街の人からみると、中心街のことを考えるのは中心街のいる人達やそこで商売をしている人、暮らしている人が考えるが当たり前だと思っていたようですが、私にとっては中心街が柏葉高校から近い所にあっただけで、学校が終わると当然街の中に来て、勉強を頑張っていたわけではないので、皆が喫茶店で話をしたり、遊びに行ったりしてまだまだ活気がありました。当時は

街を考えること自体が凄く自然なことでした。だから、街は誰のものなのかということその頃、よく話す人がいたり、自分達の中で考えることがあったりしましたが、街は誰のものでもなく、そこに暮らしている人達のものだから、帯広の中心商店街は誰のものなのかと言うと、中心商店街をやっている人達だとは思いますが。それは素晴らしいことですが、帯広で暮らしている人達みんなのものだとも思います。もっと深く言いますと、今住んでいる人たちは、昔のものではないのです。これは過去から未来へとずっと約束してきたものなのです。過去もずっとそうだし、それは自分達の税金であったり、アイディアを「ここを中心商店街にしようって」言って考えた方々がいて、それに賛同する人がいて、私みたいな農業をやっている人が当然入ったりしますが、そういった人達が「ここが自分達の街なのだ、顔なのだ。」ということを決めて、税金とアイディアと知恵と勇気を皆で投入した場所ということ。過去から未来に対して自分達の顔って一体何なのだろうと考えると、それは現代に住んでいる人達ですが、そういったことを考えること自体が、昔は普通のことでした。だから自分は「まちづくりは趣味だ」と言っていました。趣味というのはやっぱりその当時の感覚ではただただ楽しいものです。それはさっき話した様に友達や仲間と自分達の街をどうしたいのかというのを考えながら、お酒を飲んで色々な事業をやるのがただ楽しいことでした。それが自分の中のまちづくりの原点となっています。今もその本質はそんなには変わっていないと思います、そのス

ターゲット地点から始まっているのが僕のまちづくりだと思います。自分達の街をどうするのかを考えた時に「ごくごく普通のことだ」と考えています。だから、あんまり特別な意識はありません。趣味ですから。金澤理事長はサッカーが得意だと思いますが、理事長にとってサッカーは何ですかと聞かれたら意外に答えるのは難しいですよ。好きなことを好きだからやっているのに、それを説明するのは意外に難しいと思います。当たり前すぎることですからね。

金澤 青年会議所に入会する前からそういった中心街の活性化に対して活動されていたということですが、青年会議所に入会する前に活動されている中で、青年会議所に入ろうと思ったきっかけというのはどのような理由だったのでしょうか。

火ノ川 青年会議所に入ろうと思ったのは、まちづくりをやっていた仲間が芽室青年会議所に入るから一緒に入ろうということが、青年会議所との付き合いとしては最初です。田舎にいたというのもありまじ、すし、まちづくりをやっている、その肩書きで様々な人と話すわけではないですから、今から考えれば周りに青年会議所の先輩や当時現役だった人達が沢山いたけど、入会に関してはあまり考えたことがありませんでした。そのときに、たまたま誘ってくれた人が「芽室青年会議所という、まちづくりをやっている団体があるのだけどやってみないか」と言われ、もともと「一緒にまちづくりをやっていたから別に良いですよ、やりましょう」ということで何も考えずに入会しました。それで1年経過して、帯広青年会議所に「こっちに来た方がいいのではないか」

ということになって、帯広青年会議所に入会するのですが、あまり深くは考えてはいませんでした。青年会議所だから敷居が高いとも思ったこともなかったですし、どんな人がいるかも全然知りませんでした。だから何も考えず、すんなり「ああ、わかりました。入りますよ。」と入会しました。入会のきっかけとしては自分の場合は珍しい感じかも知れないですね。

金澤 火ノ川先輩の年報の中で20歳の若い時から活動し始めている時に金銭面や運動の面においてもなかなか先に進めないという苦悩の想いが描かれている箇所がありました。その中で青年会議所に入会して潤沢な資金があり、これだけ賛同してくれる仲間がいると書かれていたので、そういった想いから青年会議所に入会されたのかなと思っていました。帯広青年会議所は今年で創立60周年を迎えますが、60年間続くというのは本当に凄いことだと思っています。

火ノ川 自分は、残念ながらそういう思いではなくて、最初はその人に言われたから入会したので、全然障害はなかったもので、そういうことが年報に書いてあったかも知れませんが、ただ、入会して驚愕しました。驚愕したというのは、まちづくりをやっている一番困ることは、どれだけ若い人たちが集まっているにもかかわらずお金はありません。やりたいことはたくさんあります。面白いこともたくさん思いつきますがお金がない。お金で勝手に出てくるものではないので、どうにかして生み出さなきゃいけません。今となれば、誰かにスポンサーとしてお願いをしたりですとか、帯広市に補助金をお願いしたりですと

か、自己資金ということも当然ありますよね。色々な方法が考えられるけど、当時なんかまったくそんなことを思いつかないから、自分達だけでお金を集めると言っても全然大したものにはなりません。若い人が10人集まって、少しずつお金を出してほしいものにはならないし、仲間を集めると言ってもどうやって仲間を集めるのか、仲間を集めることも結構大変なことです。どうしたら良いのだろうか、やりたいことはあるのにかと思ったのです





が、青年会議所に入ったときにメンバーがお金を出し合っているということにまず驚愕しました。それが10万円ずつで帯広青年会議所は当時150人ほどいましたので1,500万円あります。これをまちづくりのために自分達で考えて使うということは夢のような世界だと当時は思いました。当然1年目というのは勉強しなければいけない時期です。自分達が事業を組み立ててということはありませんでしたが、その時はそれにしてもこの団体は凄いと思いました。本当にまちづくりをやっている人の中

では夢のような世界です。さっき言った仲間を集めようと思わなくても、150人もいて、まちづくりを一緒にやってくれることは本当に凄いと実感できました。入会してから少し経過すると段々と理解できできます。名刺交換1つにしても、市長と名刺交換ができます。この名刺は凄いなと本当に思いました。だから凄い団体に入っちゃたなとそのとき思いました。これはまちづくりをやる上でここに入らないわけにはいかないなど、そのときに刻みました。

金澤 帯広青年会議所に入会して卒業されるまでの12年間で、苦しかったことや楽しかったことなど色々なことがあったと思いますが、まちづくりに携わっていく上で一番楽しかったり、成長したりしたと実感できたポジションや役割はどれでしたか。

火ノ川 これは、結構難しいですよ。難しいという意味というのは、これは是非現役メンバーの方にも聞いて欲しいのですが、青年会議所は私が言ったようにまちづくりをする上では素晴らしい団体だと思います。ところが青年会議所に入っているいろいろな運動や活動をする段々JCをやるのがJCになってきます。不思議に思いますよね。まちづくりをしたくて、僕の場合はそのまちづくりが趣味でまちづくりがしたいと言って入って見たら潤沢な資金もあり、さっき言った様になんて好条件な団体だと思います。2年目や3年目になると役職を貰いま

す。すると、その役職をやるのがJCをやることになってきます。次の役をもらうことがJCをやることになってきます。本当はそうではないし、そうではない人も沢山いるから自分の場合ということですが、次に委員長をやること、その後に副理事長をやること、そして理事長をやること、この過程の中でJCをやるためにJCをやってしまうと、自分が何をしたいのかが段々わからなくなってきます。自分は一体ここに何をするためにいたのだろうかと思えます。その点はそれぞれです。別にまちづくりに関わらずでも自己研鑽でも自分を何とか高めようとする人はそれでも良いのですが、それでも、自分が何をやるために入会したのかをもう一回皆さんに振り返っていただきたいなと思います。OBの方々からは良く言われることですが、最初は自分勝手なことのために入ったのだけでも、最後に卒業してみたらまちづくりの為にいたみたい話をされます。それは素晴らしいことだと思います。ただ、私の場合はちょっと違って、段々とその役をやることに対して重きを置くのですが、それゆえに段々と自分がつまらなくなってきたかなと思ってしまいました。それは理事長をやった際に「あ、違ったな」ということにあるときに気づきました。理事長をやる前から少しずつ気づいていたのですが、このときに、これでは駄目なのだろうかと明確に思いました。ただ、今の質問にもあったようにどこが一番良かったかと言うと、やっぱり委員長の時だと思えます。当時、私を委員長に勧めてくれた理事長や、当時の方々が「彼はずっとまちづくりをやってきたから事業系の委員長をやらせたほうがいい」と言っていたとき委員長役職をさせてもらいました。自分が委員長の時は結果から言うと、何一つ上手いきませんでし

た。しかし、委員会メンバーには凄くお世話になりましたし、皆とは今も仲が良いし、当時の苦労話もしますけど、自分の中では何一つやっぱり思った通りにいかないものだというのが、逆に一番楽しかったし、一番勉強になった時だと感じました。理事長をやる際も当然そうでしたが、その前に打ちのめされたのがやっぱり委員長の役職だったから、やっぱり自分の中では過去を振り返ると一番勉強になったと思っただけ、まだまだこれくらいじゃだめだなどと思、理事長になるまでに、自分が本当は何をやるためにここにいたのだということを思い返してくれた時期が、委員長を境目に思ったことでした。その時が一番思い出に残っているかなと思います。ぜひ現役の方々には、もう一回考えてほしいです。今やっていることが本当にちゃんと運動になっているのだろうか。ただ活動するために私たちは存在しているわけではありません。私たちの団体は運動体です。今、きちんと運動しているのだろうかということ、真剣に考えてほしいです。それと自分を高めるためには、本当に今考えていることや、運動に対しての考え方や本当に最初に思ったことや、どこかで、この人かっこいいな。」と考える先輩に自分は近づいていっているのだろうかということをもう一回ちゃんと考えてみたほうがいいですね。

金澤 実は火ノ川先輩が年報で、最後、卒業に寄せて」ということで記載されている中で、お話しされた部分が私には凄く深く胸に刺さりました。現役メンバーには組織の中で活かされてしまって本質を見失ってしまった部分があることを今一度振り返

ってほしいということを残されています。僕も先輩ほどではないですが公益社団法人日本青年会議所と公益社団法人日本青年会議所 北海道地区協議会に出向させていただいた経験の中で、帯広青年会議所より公益社団法人日本青年会議所や公益社団法人日本青年会議所北海道地区協議会の方が運動の比率が高いです。本当にその運動が持続可能なのかというのを含めて、運動が進んでいる中で組織がどんどん小さくなります。最小単位の地域の青年会議所になると運動と組織、すなわちひとつくりも青年会議所



では大切な要素になります。現状ではひとつくりに重きが置かれていて、7対3とかそれぐらいのレベルで運動よりも組織だったり、ひとつくりだったり、そちらに重きを置いてしまっていて、それが理解できないわけではないですが、もっと運動にしっかりと目を向けるべきなのだろうなというのは私も思いましたし、帯広青年会議所の人数が減っている中で、運動よりもまずひとつくりというか活動の部分でしっかり委員会運営をやらなくてはいけない部分もあると思います。

火ノ川 それも理解できる気もします。運動の中でひとつくりができれば、それが一番良いと思います。それぞれがきちんと両立し、両方ともしっかりと成功するというのが一番良いです。今言われたようにその委員会運営がちゃんとしなきゃいけないですし、組織としての帯広青年会議所がずっと大切にしてきたものをどうやって守っていくのかということも良くわかるのですよね。そのようなジレンマはずっとあり続けますが、それでもやっぱりさっき言ったように本質は運動体なのだろうなと思います。理想はやはり運動を通して組織をしっかりと見つめ直していくということがやはり正しい形でしょうし、運動を一生懸命行っている組織はやはり強いと思います。本当に運動をきちんと行っていると組織が成熟していくのではないかと今となっては思いますよね。ただ、それが正解かは私にもわかりません。

金澤 やはり青年会議所は手段のひとつで、その手段をメンバーの視点がそれぞれ違う中で見誤らずにどうやって地域や会社に活かしていくのかというこ

とが重要になっていくのかなと感じます。

火ノ川 まさにそうですね。これは手段です。それに気づくまでは随分時間がかかりましたけどね。すぐにはこの意味が理解できませんでした。JICをやるためにJICを行っているわけではないですよ。JICを利用して何かに使うということが重要ですよ。**金澤** 今回、歴代理事長としてお聞きしたいのですが、理事長を受けてから期間が1年半あったと思います。その中でこれは絶対にやりたいということはありませんか。

火ノ川 実行委員長をさせてもらったときに自分が思ったことは、青年会議所は地域のためのデザインを描くことだと考えていました。昔、吉村帯広市長が帯広の最初のデザインを描いた人でした。当初、帯広市を20万人都市にしたいと都市計画を作りました。今考えると目標数値もちょうどよく素晴らしい都市計画で、コンパクトシティという言葉が無い時代からコンパクトシティを見据えた都市にしようとしていたようです。当時、帯広の森を作り、成長限界線を決めたが、時代が流れ、世の中が自分の家が欲しいというニーズから帯広の森の隣に大空団地を作りました。また西帯広に造成していったことも大型スーパーで買い物したいですか、ワンストップで行動したいなどのニーズがあったからです。しかし、これによって帯広第三中学校と帯広第六中学校が統合されたように帯広市の東側は空き家が広がるという形で廃れていきました。これはデザインをどう描くかだと思うのです。自分たちの街がどこに向かうか。最終ジャッジをしない

ということが大切だと感じます。みんな、わがままなので自分勝手に物事を言いますが、これにはその都度答えてはいけません。自分の街をどうするかをデザインするのが青年会議所の役目だと思いますし、理事長になったときのスローガンは地域をデザインするという内容にしました。これが理事長の役割に就いたときにやってみたいことでした。

金澤 自分も2015年度に出向した地域経営推進委員会で多くのことを学びました。今までの地域の主導権を握っていたのは国でした。国策の日本列島改造論や田園都市計画に基づいて似たような街ができてしまいました。しかし、これからは産官学が共同で主体となっていかなければならないし、その中で私は街づくりのための人づくり。地域に必要とされる人間を作ることが重要だと考えています。また個人的にスポーツが好きということもあり、スポーツを通じて地域活性化をするというビジョンを描いています。

火ノ川先輩はおびひろ氷まっりの実行委員長、そして今年度からおびひろフードバレーマラソンの実行委員長など青年会議所を卒業されてからも活躍されていますが、青年会議所の経験が活かしていることはありますか。

火ノ川 青年会議所の活動が無かったら何もできていなかったと思います。実行委員長などは立候補でやった訳ではなく依頼があったので受けましたが、街づくりに必要だと思ったから受けました。青年会議所で学んだことはチャレンジすることの重要性です。おびひろ氷まっりも長い間開催しているが、回



数で言うとしたら55回しか開催していません。フードバレーマラソンに至ってはまだ6回しか開催してないですね。まだまだ続く事業の中で、自分たちは事業を通じて何を伝えなければいけないのかという考え方をできることが青年会議所で学んだことです。課題と目的をしっかりと決めなければいけないということも学びの一つでした。地域の課題というのは何かを事業を通じて伝えるということが大事です。これらの事業は自分の街では一つのファンクションだが、これらの集合体で街が形成されているので、

何を伝えるかという視点を持つことが非常に大事だと考えています。前年度の課題などに目を向けるということも大事ですが、青年会議所は街をデザインしなければいけないので、100年先のような未来を見据えた道筋を私たちがつけていかなければならない。そして楽な方法はいっぱいありますが、チャレンジしていかなければいけません。青年会議所は何回失敗してもいい団体です。これは若者に与えられた特権だと思います。だからこそ当たり前のことはやらずにチャレンジしなければならぬし、



それに私も期待しています。今年度の帯広青年会議所はスポーツのことをやりたいということでしたが、誰でもできるスポーツ事業を行うのは青年会議所の役割ではないので、青年会議所だからできる事業を行ってほしいですね。チャレンジした失敗は称賛に値します。また、今回は何が失敗だったのか。未来へこんなことが課題だったなどを事業報告書として残すことが大切です。課題があることは素晴らしいということを理解して、課題をクリアすればよい物にしていくことができます。この考え方ができるということを青年会議所で学びました。考え方の角度も青年会議所で学んでいて、事業を行う前と行った後では見えてくる角度が全然違うということ。今でも一緒に事業を取り組むメンバーに青年会議所出身者がいると自分が考えもしなかった角度からの意見がどんどん出てきて非常に面白くなってしまうことは、帯広青年会議所の力だと思います。

金澤 また、火ノ川先輩には今回の対談で出向についてもお伺いしたいと思っておりました。火ノ川先輩は北海道地区協議会で委員長や地区役員など様々な役職を経験されてきましたが、北海道地区での運動と帯広青年会議所での運動の違いなどを教えてください。

火ノ川 一番の大きな違いとしては、視点の違いがあり、北海道全体のような広いところから物事を見ようとするとJCIの中でのめり込まなくなり、広い視野で物事を捉えることができるようになりました。また、北海道地区協議会についてよく感じたのは時間の大切さを強く感じました。例えば、北海道中から

色々な人が来て、自分が委員長だったときには自分の議案を見に来ます。そして、意見をさせていただきました。それをそれぞれの青年会議所へ持ち帰っていきま。折角、時間をかけて集まってもらった仲間たちにつまらないことはできない。周囲の方の貴重な時間を使用していることの大切さは感じました。

そして、改めて北海道は広いなと感じます。自分が置かれているフィールドは広いなと感じて、その広さがあるが故に視野が段々と広がっているのを感じます。帯広の中だけで何かをやるということが、視野が狭いと感じようになります。そういった意味では北海道地区や日本JCIなどの出向は本当に大切だと改めて思います。そしてやっぱり北海道には面白い人間がいっぱいいるなと思います。出会う人、出会う人がピカピカしていて、それはやる気があってそこにいるからだと思えます。ピカピカの人達の中にいると、自分がなんてちっぽけな人間なのだと毎回感じましたね。

帯広のために街づくりをしていると結構褒められることがあります。北海道全体の中では小さな人間なので、そう考えると頭にくることもいっぱいあります。今思うと勉強になることばっかりでした。本当に人に磨かれたなと切に感じます。運動体としては見ている視点が違う場合などがありますが、やっぱり素晴らしい人に出会えることに尽きますね。

金澤 JCIを卒業されてからも現在、トップランナーとして街づくりに携わっている火ノ川先輩から、帯広青年会議所メンバーへの一言と地域とのかかわり方についてお話を聞かせていただきたいです。

火ノ川

青年会議所では、色々なことにチャレンジしてほしいと思います。それはメンバーの人数が多いか少ないかなんて全く関係ありません。日本の青年会議所の中には、20〜30人で素晴らしい事業しているLOMがたくさんあります。昔に比べると人数は少なくなってきたので、予算も少なくなってきたのはよく分かります。ただ、全然目先を変えて、もし僕らが元々30人のLOMだったら50人に増えたらすごいことですよ。そう考えるとやれることはいっぱいあると思います。とにかくさっき言ったように青年会議所ではチャレンジしてほしい。青年会議所って本当に面白いことやると言わせたいですし、そう言われてほしいです。僕らも後輩も含めて。僕は出来たかという点でいいないと思います。だから希望として言いますが、やっぱりあの人たちが考えること面白い、やるのが面白いと言われるのはいいです。そして、先程言ったように失敗はどんどんしてください。失敗しないような事業をやっているから駄目だと思います。逆に言うと、どんどん失敗した方がいいです。そういう事業をどんどんやってほしいと感じます。そして、青年会議所以外の人と付き合える人を増やしてほしいです。そういう人がいないと、自分たちの中だけでやっている、青年会議所の役職の上下関係だけでやっている、誰が面白くて、誰が面白くないかわからなくなってくるからです。付き合うとやっぱりこういう人は面白いなと、そしてやっぱりこういう人は面白くないなと、そういうことが段々と分かってくると思います。だから色んな人と付き合いなが

ら、是非面白いことをやってほしいです。突拍子もないことやるなど周囲に言われて欲しいです。そして、自分もこれから歳をとってくると色々なことがやれるのが自分の中で分らない場合がありますが、フードバレーマラソンの実行委員長を今年受けましたので、何か面白いことをやってみたいと思っています。その中でも青年会議所で学んだ視点を忘れず、このマラソンは一体何のためにやるのかを真剣に考えたいです。ただ走る人のためだけでは

ないですよ。目的の中に観光は資源なのだとかありますが、とかちの観光は何なのかということ深く掘り下げないといけないと思います。とかちの観光って一体何を指しているのだろうかということ。フードバレーマラソンというのは旗印だといふのは分かりませんが、せっかくなにかある非常にいい言葉よりうまく使えないかと模索しています。そういうことをしながら、僕はせっかくなにかある非常にいい言葉よりうまく使えないかと模索しています。そういうことをしながら、僕はせっかくなにかある非常にいい言葉よりうまく使えないかと模索しています。

2018
フードバレーとかちマラソン
おもてなし
が 変わります!!
Change!

ランナー応援 POINTが増えます
フードバレーとかちが 一体となり皆さんを 応援します

十勝産食材を たっぷり使った 豚汁を提供 します!

十勝産の 採れたて野菜を お土産に用意して おります!

ランナーの皆さんには ゴール会場の 「十勝産食材の飲食ブース」 「十勝産物販ブース」で 使える500円相当の チケットを1枚プレゼント!
※現金との組み合わせも可

ランナー応援 POINTが増えます
フードバレーとかちが 一体となり皆さんを 応援します

交通規制緩和の為、 関門を2箇所増やし ハーフマラソンの 制限時間を 5分短縮します

ゴール後の ランナーエリアを拡大! 手荷物預かりの 混雑を 解消します

コース上での 距離表示を 大きく見やすく します!

参加特典は 記念タオル!

給水地点での スポーツドリンク の提供が 復活します!

ベスト パフォーマンス賞 エントリー希望の方は スタート前に受け付けし、 ベストな状態で 審査します

2018 フードバレーとかちマラソン実行委員長に就任しました火ノ川好信と申します。普段は農家を営んでおり、今回は「フードバレーとかち」の生産者の視点で皆様が快適に楽しく走ることができるよう、全力で取り組ませていただきます。エントリーを心からお待ちしております!

ごあいさつ

分野に在るわけだから、僕がやらなければいけないことは、その中に自ずとあると思います。それに加え、農業の人がやるまちづくりがもつと面白いなというのを皆さんに見せなければいけないということが、自身の50歳までの課題かなと感じます。それが終わった僕は市長になるのでしょうかね。たぶん帯広市長になるのだから、何年後になるかどうかだけだからね。こんな冗談はこのあたりでやめて、そんなことを考えながら、こういう人達にもおじさん頑張っているねと思われるように頑張りたいです。やっぱりこの人は面白いことやるねと言われる方がいいです。そういう人間であり続けたいと思うから、もう少しだけ頑張ってみようと思っています。

金澤 フードバレーマラソンの実行委員長が火ノ川先輩になると聞いたときには、間違いなくワクワクするような企画されるのだろうなと思いました。私たちもこの団体だったらワクワクさせてくれるような事業をやってくれると思っていただけのような人づくり、そしてまちづくりをしっかりやっていきたいと思います。本日はありがとうございました。

2018年7月12日(木)

一般社団法人帯広青年会議所 事務局にて

製作…一般社団法人帯広青年会議所

2018年度広報渉外委員会

走って、走って
渴いた体に
染み込む食。

フードバレー とかちマラソン
FOOD VALLEY TOKACHI MARATHON

2018.10.28 SUN

申込期間 2018.7.9 MON ~ 9.18 TUE

参加定員3,500名(ハーフ)申し込み多数の場合は先着順で締め切らせていただく場合があります。

主催 / 2018フードバレーとかちマラソン大会実行委員会
共催 / 北海道新聞社 十勝毎日新聞社
主催 / 十勝県上届協議会
後援 / 北海道 帯広市 帯広市教育委員会 十勝町村会 (一財)北海道陸上競技協会 帯広商工会議所 帯広市商店街振興組合連合会 十勝地区バス協会 十勝地区ハイカー協会 十勝地区トラック協会 帯広市体育連盟 (一財)帯広市文化スポーツ振興財団 とかち帯広ホテル旅館協会 (一社)帯広観光コンベンション協会 (一社)帯広青年会議所 帯広のまつり推進委員会

特別協賛 /
ANA 帯広支店

プロの協力 / 帯広コア専門学校
運営委託 / (株)新生 帯広支社
事務局 / 2018フードバレーとかちマラソン大会実行委員会事務局 TEL 0155-65-4210 FAX 0155-23-6142
http://foodvalley-marathon.com